

～防潮堤・水門におけるインフラツーリズム～

令和2年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：東日本大震災の復旧・復興事業における津波防災施設の利活用に関する研究
 ー岩手県におけるインフラツーリズムを通じた防災意識の醸成ー

研究代表者：総合政策学部 講師 三好純矢

課題提案者：岩手県沿岸広域振興局土木部 復興まちづくり課長 阿部貴之

研究メンバー：高橋良平（倉敷芸術科学大学 危機管理学部）

キーワード：インフラツーリズム、防災意識、津波防災インフラ施設、東日本大震災津波

▼研究の概要（背景・目標）

岩手県沿岸広域振興局土木部では、震災からの復旧・復興と併せて、震災の伝承と防災意識高揚のため津波防災出前講座や津波防災施設での見学会等を実施している。今後の岩手県のインフラツーリズムの取組みを発展させていくために、見学会参加者のニーズを明らかにする。



津波防災講座の様子



見学会の様子

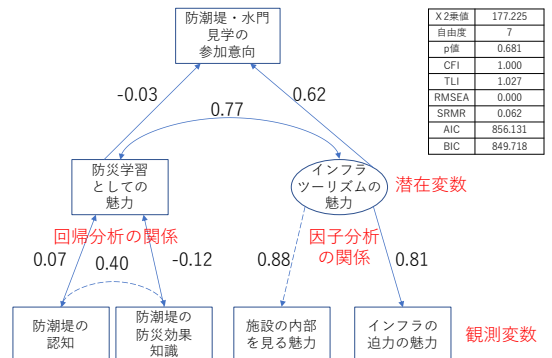
▼研究の内容（方法・経過）

1. 調査対象：地域住民、観光客
および観光関連事業者
2. 調査内容：アンケート調査 および
インタビュー調査
3. 調査期間：令和3年1月24日～3月20日

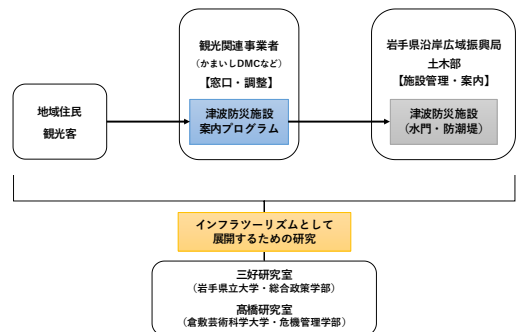
▼研究の成果（結論・考察）

1. 「防災学習としての魅力」よりも、「インフラ施設自体の魅力」が見学会への参加意向に強く影響していることが明らかとなった。
2. これまで沿岸広域振興局土木部が単独で行ってきた見学会の誘致・集客に関して、地元釜石で震災伝承のための語り部活動にも取り組む(株)かまいしDMCとの連携を図った。

見学会参加意向モデル



津波防災施設見学プログラム化の体制



▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 津波防災講座および見学会を、岩手県立大学総合政策学部の学生を対象に実施した。
2. 津波防災インフラ施設のどのような魅力が見学会の参加意向に影響するかについて、見学会参加意向モデルを構築した。
3. 今後、更なる防災意識の醸成に向け津波防災施設の見学参加者にとって何が魅力となったかを調査する必要がある。見学会を重ねる中でアンケート調査を実施し、多様なニーズに応じた目的別プログラムを立案するなど、ステークホルダーとともにブラッシュアップを目指す。
4. 調査実施にあたり、ご協力頂いた(株)かまいしDMCのスタッフの方々には、感謝申し上げます。

研究背景と目的

研究の実施方法

研究成果

まとめ